

「子宮頸部がんの予防から治療について」

婦人科領域のがんで最も一般的な子宮がんは、子宮頸がんと子宮体がん（子宮内膜がん）があります。

このうち子宮頸がんは、外子宮口付近に発生することが多いため、婦人科の診察や細胞や組織を採取することで早期発見・早期治療が可能な疾患です。また、細胞診では、がん細胞が子宮頸部に見つかる以前の異型細胞の段階から診断することができるため、子宮頸がん検診は非常に有効な方法であり、健診を受けることで、進行がんを防ぎ死亡を減らす効果が証明されています。欧米において検診の受検率は高く、アメリカでは、18 歳以上の女性の 86% が過去 3 年以内に 1 回以上検診を受けている（2002 年）のに対して、日本では過去 1 年以内に受けた女性は 15% に満たない状況で、欧米と比較して国民の関心が低いことがわかります。子宮がんの罹患率は 2005 年の統計で、全体として年間約 17,500 人のうち、子宮頸がんが約 8,500 人であり、年齢別にみた子宮頸がんの罹患率は、20 歳代から 40 歳前後まで増加した後横ばいになり、70 歳代後半以降で再び増加する傾向があります。近年は、罹患率、死亡率ともに若年層で増加傾向を認めています。一方で、子宮頸がんの発生には、その多くの場合、ヒトパピローマウイルス（Human Papillomavirus : HPV）の感染が関連しているといわれており、最近では、一部の HPV 感染を予防できるワクチンが利用可能となっています。

本シンポジウムの基調講演では、子宮がんという疾患の概要について解説するとともに、子宮頸がんに対するワクチンを用いた予防医学的見地からの解説も加えて易く解説した後、各分野の専門家が登壇してシンポジウムを開催しました。最後に総合質疑応答の時間を設けて、会場からのご質問にできる限りお答えしました。

本シンポジウムが、子宮頸がんへの意識付けの契機となることを切望するとともに、本疾患に対する正しい知識を整理して、がん検診の大切さを理解して頂くことで、市民の皆さまの健康維持に貢献できれば幸いです。

当日は 116 名の多くの市民の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

プ ロ グ ラ ム

期 日：平成 24 年 12 月 8 日（土） 13:30～17:00

会 場：メルパルク京都

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13

TEL：075-352-7444（代）

司 会：本郷 隆治（京都桂病院） 、 錦 成郎（天理よろづ相談所病院）

1 . 基調講演「子宮頸癌は予防できる」

大阪府立成人病センター 上浦 祥司

2 . シンポジウム

1) 子宮頸部細胞診の実際

京都市立病院 三宅 秀一

2) 女性骨盤領域における MRI 画像診断技術の解説

京都大学医学部附属病院 谷口 正洋

3) 腔内照射法等による放射線治療技術の解説

大阪府立成人病センター 宮崎 正義

4) 子宮頸癌に対する治療法～手術療法を中心に～

京都大学医学部附属病院 馬場 長

3 . 総合質疑・応答

後援：京都府、京都市、京都府医師会、京都私立病院協会、京都府放射線技師会、京都府看護協会、京都府臨床検査技師会、KBS 京都、京都新聞社